

平成21年度博物館施設評価シート結果報告

施設名	埼玉県立自然の博物館
資料の収集・保管	自然の博物館と川の博物館のスケールメリットを生かした資料の収集を考慮し、有効利用を進めるために資料の整理を行う。また、収集資料の確認による管理の励行と保全に努める。

評価基準		
十分	目標値+10%以上	5点
達成	目標値+5%以上	4点
ほぼ達成	目標値±5%未満	3点
やや不十分	目標値-5%以下	2点
不十分	目標値-10%以下	1点

視点	項目	指標	目標値		評価 (見込)	特記事項
			達成値			
資料の充実・有効活用	館有資料の拡充状況	1 館有資料の充実	9,500	点	1	過去3年実績中の最高値 動物488点、植物601点、地質153点
			1,242	点		
	館主催事業等での利用状況	2 資料の活用	6,800	点	1	過去3年実績中の最高値 館内での活用 1,219点 館外での活用 441点
			1,660	点		
	外部からの要請等による利用状況	3 館蔵資料貸出	6	件	5	過去3年実績中の最高値 館外貸出件数 11件 (621点)
11			件			
資料データの活用状況	4 資料特別利用	50	点	1	過去3年実績中の最高値 写真原板利用等 (含む写真掲載) 15点 資料撮影 8点 資料熟覧 18点	
		41	点			
資料データの活用状況	5 データベースの活用状況	12000	点	5	過去3年実績中の最高値 デジタルアーカイブへの提供 4点 自然史系博物館の生物多様性情報への提供 28,821点	
		28825	点			
サービスの水準	常設展示	6 総合的な満足度 (「満足」の割合)	75	%	1	全館共通 年間アンケート回収件数868 年間満足回答件数556 当館の場合、施設が明確に区別されていないため、来館者にとって常設展示と企画展示、季節展示の区分が難しい面がある。そのためアンケート結果がそのまま常設展示の総合的な満足度を示さない可能性もある。
			64	%		
	企画展示	7 総合的な満足度 (「満足」の割合)	80	%	3	全館共通 年間アンケート回収件数51 年間満足回答件数40 独立した企画展示室が設定されていないため、常設展示と企画展示の区別が困難な面がある。そのため、常設のアンケートでは企画展示の満足度の把握が難しい。今年度の企画展「鉱物の魅力」で対面・観察でのアンケートを実施したので、その結果に基づいた評価である。
78			%			
生涯学習支援	8 普及事業の総合的な満足度 (「満足」の割合)	80	%	4	全館共通 年間アンケート回収件数276 年間満足回答件数241	
		87	%			
利用状況	入館者	9 一日あたりの入館者数	240	人	1	過去3年実績中の最高値 年間開館日数 315日 年間総入館者数 63,620人
			202	人		
	企画展示	10 一日あたりの観覧者数	-	人	-	常設展示の観覧者が自由に観覧できるので設定は困難
			-	人		
生涯学習支援	11 普及事業への参加率	85	%	5	全館共通 年間総募集定員数 646人 年間総参加者数 668人	
		103	%			
生涯学習支援	12 レファレンス	700	件	3	過去3年実績中の最高値 来館416件 電話等265件	
		681	件			
広報	13 インターネットでの情報利用	200,000	件	5	過去3年実績中の最高値 HP年間更新回数304回	
		334,443	件			
広報	14 広報	200	件	5	過去3年実績の正確な数値が不明なため、目標値を設定。 マスコミ等への情報発信数 236件 マスコミ等での掲載件数196件	
		236	件			

学校支援	学校利用受入	15	学校教育活動における利用数	200 校	1	過去3年実績中の最高値
				170 校		利用学校数の内訳 小学校 94校 中学校 34校 高校・大学 42校
	児童生徒利用	16	児童生徒の参加者数(学校週5日制対応事業を含む)	3,350 人	5	過去3年実績中の最高値
4,284 人				小学校2,999人、中学校1,285人		
学校連携	17	学校への・職員派遣・資料貸出・連携事業	80 件	5	過去3年実績中の最高値	
			88 件		ゲストとしての職員派遣数 76件 教育普及資料等貸出数 4件 館内での連携事業等の取り組み 8件	
ボランティア	18	ボランティアの活動	310 人	5	過去3年実績中の最高値	
			365 人		ボランティア活動日数延べ162日人(普及事業補助28人、調査・収集事業補助40人、資料整理補助87人、その他7人)。外部研究者活動日数延べ203日人。	
調査研究	19	研究成果の公開(発表会・印刷物等)	4.1 件	1	過去3年実績中の最高値	
			3.1 件		学芸職員総数17人(館長・副館長含む) 年間総発表件数 53件	
その他	20	開放施設の活用度	60 %	1	過去3年実績中の最高値	
			40 %		利用可能日数 272日 利用日実数 110日	
効率的経営	21	博物館の自立度(観覧料および事業等収入)	5,453,000 円	3	当該年度予算計上額	
			5,233,120 円		観覧料 4,990,270円 その他事業収入 242,850円	
各館別項目	22	社会教育施設や団体等への支援・連携	50 件	3	過去3年間の最高値	
			50 件		職員派遣 42件 資料貸出 5件 連携事業 3件	
	23	国・県機関への対応	30 件	5	過去3年間の最高値	
			38 件		調査協力(宝登山調査、植生など)、食中毒に伴う同定・対応方法など	
	24	マスコミ等民間機関への対応	42 件	3	今年度新たに設定。過去3年間の最高値	
			43 件		NHK教育放送など	
総合評価				合計評価点(見込)	達成度(合計評価点÷測定値設定数)見込	
				7.2 点	1.04% 1.04% [7.2点÷(2.3項目×3点)]	

評価	1. 「不十分」の評価項目が散見されるが、評価全体としては104%と目標値を超える評価が得られた。					
	2. 「3. 館蔵資料の貸出」「5. データベースの活用状況」「11. 普及事業への参加率」「13. インターネットでの情報利用」「14. 広報」「16. 児童制度利用数」「17. 学校連携」「18. ボランティア活動」「23. 国・県機関への対応」は、目標値の10%以上に達し、十分の評価が得られた。					
	3. 「1. 館有資料の充実」「2. 資料の活用」「4. 資料の特別利用」「6. 常設展示 総合的な満足度」「9. 入館者数」「15. 学校教育活動における利用数」「19. 研究成果の公開」「20. 開放施設の活用度」が不十分の評価であった。 この中で、注意しておきべき項目は「6. 常設展示 総合的な満足度」「9. 入館者数」「15. 学校教育活動における利用数」である。「6. 常設展示 総合的な満足度」では、展示が固定のため展示物の変更など大きな変化をすることが出来ないため、代わり映えのしない展示と見られている面がある。また、展示がジオラマであったり個別の標本を展示する形式でないため、展示を見たときに意図する内容がすぐに分かりづらい面もあり、それが影響している可能性もあると考えられる。「9. 入館者数」と「15. 学校教育活動における利用数」は互いに関連していると考えられる。今年度に関しては、6月、10月、11月に入館者の減少があり、また、団体の入館も減少しているため、インフルエンザの影響があったものと考えられる。 「1. 館有資料の充実」と「2. 資料の活用」は、扱う分野により点数に大きな変動がある。例えば、昆虫標本などでは点数は増加するが、今年度はそのような分野を扱っておらず、数値的には低かったものである。「4. 資料の特別利用」は外部からの利用であり、広報等の課題はあるかもしれないが、博物館として数値を増加させるのは難しい面もある。 「19. 研究成果の公開」では不十分の評価であったが、過去3年間で見ると一人当たり3~4件の公開数であり、同じ程度の実績数を提示している。					
課題	1. 常設展示の満足度が十分得られていない点が課題である。多くの展示が固定であったり、巨大ジオラマ展示のため展示物の変更などが簡単ではないが、満足感を与える工夫を行う必要がある。					
	2. 「9. 入館者数」は「15. 学校教育活動における利用数」とも関連しているが、入館者数の確保・増大が課題である。					
対応の方向	企画展示を含め展示に対する満足度の向上は大きな課題である。前述したように、常設展示はほとんどが固定物のため展示更新が容易ではない。しかしながら、部分展示による展示内容の補充や交換できる資料の充実を図り展示の更新を判断できるようにする。また、展示の理解をすすめるために、展示の解説リーフレットの更新や新規作成などとも、展示案内や「ふれあいトーク(学芸職員による自然をテーマにしたトーク)」の充実などをすすめたい。また、県民要望を把握して、多様な企画展などの展示を展開したい。 さらに、自然の博物館の認知度の問題がある。認知度を上げるためマスメディアや種々の媒体、地域社会や学校などへの積極的な広報を行ってきたが、今後も広報活動での情報提供の強化やミニコミ誌等との連携強化を図っていく。また、市町村立博物館との共催展などを通じて自然の博物館の認知度を高める。それとともに、県民ニーズを把握し、博物館として魅力的な活動を進めていく。 これらの活動は、入館者数と関わってくるものであり、満足度を高めた展示や認知度の向上が、入館者増に反映するものである。					

基礎データ

職員数(学芸員数)	20人(10人)	総予算額(人件費を除く)	1,026千円	職員1人あたりの県民人口	35.8万人
収蔵資料点数	143,579点	事業経費(上記の内数)	3,070千円	利用者1人あたりのコスト(平成20年度)	155円
平成20年度収蔵資料点数	851点	特定財源予算額(うち観覧料収入)	5,844千円(5,291千円)	県民人口に対する利用者の割合(平成20年度)	0.91%

(注)平成21年4月1日現在の埼玉県推計人口は7,151,054人である。

全館共通の意見

指摘事項	指摘意見	意見への対応
<p>評価項目全体に係る事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、課題と対応という形で総括されているが、結果としてそれがどう検証されているかという点が大切である。 ・年度によって、様々なことに取り組んでいるが、結果としてそれが良かったのか？悪かったのかについての評価をしたほうがよいのいではなか。 ・観覧者や利用者向けを意識した評価システムであると感じる。数値化できるものに偏っている。もっと博物館本来の事業が評価できるシステムにするべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・22年度中に評価小委員会の指導・助言のもとで現行評価システムの抜本的な見直しを行う予定であり、その中で指摘意見を取り入れていきたい。